

放送を巡る諸課題に関する検討会
衛星放送の未来像に関するWG（第9回）議事要旨

1. 日時

令和2年7月8日（水）13時30分～15時12分

2. 場所

WEB会議形式にて開催

3. 出席者

（1）構成員

伊東主査、石田構成員、榎並構成員、大橋構成員、奥構成員、近藤構成員、宍戸構成員、中村構成員

（2）オブザーバー

（一社）衛星放送協会、（一社）日本民間放送連盟、（一社）放送サービス高度化推進協会、日本放送協会、（一社）電子情報技術産業協会、（一社）日本ケーブルテレビ連盟、スカパーJ S A T（株）、（株）放送衛星システム

（3）プレゼンター

（一社）日本CATV技術協会、（株）NTTぷらら

（4）総務省

吉田情報流通行政局長、吉田大臣官房審議官、湯本情報流通行政局総務課長、豊嶋同局放送政策課長、塩崎同局放送技術課長、井幡同局地上放送課長、三島同局情報通信作品振興課長、吉田同局衛星・地域放送課長、井上同課地域放送推進室長、水落同課技術企画官

4. 議事要旨

（1）開会

（2）受信環境の現状と課題

- ・（株）NTTぷららから、「IP放送における衛星放送への対応について」（資料9-1）について、説明が行われた。
- ・（一社）日本CATV技術協会から、「集合住宅における新4K8K衛星放送用受信設備の状況」（資料9-2）について、説明が行われた。
- ・（一社）放送サービス高度化推進協会（A-PAB）から、「衛星放送の市場調査およ

び受信環境について」(資料9-3)について、説明が行われた。

- ・事務局から、「新4K8K衛星放送に係る受信環境について」(資料9-4)について、説明が行われた。

(3) 意見交換(構成員等の主な発言やコメントは以下のとおり)

【宍戸構成員】

事務局の資料9-4において、受信環境整備の推進について、官民連携ということで、3つの方策が提示されているが、これに加えてこのような取組があるのではないかということや、あるいはこの3つの方策が挙がっていることについて、このように進めてほしいなどご要望があれば、A-PABに発言いただけないか。

また、全体的なコメントとしては、着実に新4K8K衛星放送の普及状況、あるいはその障害となっている環境を丁寧にヒアリング等で明らかにし、そして今後の受信環境整備に向けて、着実な取組を促される方向で結構だと思っている。しかし、議論全体として、4K8Kがこういうものであり、それに対してこういう国民の期待があるというのはわかるが、現在の国民が置かれているメディア環境の中でその全体像の中で今まで何が足りず、そしてだからこそ新4K8K衛星放送に新たな放送サービスとしてどういうことを期待しているのかについて、もう少し光が当たっているとより効率的な普及のための取組ができると思った。

【(一社)放送サービス高度化推進協会】

今後については、既存の集合住宅への対応、設備改修に何かしらの公的な支援がもし可能であればご検討いただけないかということが一点。もう一つは、4K8Kのコンテンツの充実を図るための何かしらの公的な支援がもし可能であれば、そういった面もご検討いただければありがたいと思っている。

【石田構成員】

全体的に4Kを視聴する方が1年で9.9%から14.4%と確実に上がっている。テレビを買い替えようとするときには、4Kになるとなるのかなと思ったところだが、それにしては市場調査の結果からだと受信方法については50%以上の方が理解しておらず、左旋にアンテナが必要ということは85%が知らない、という結果で、本当にご存知でないことがよくわかった。ケーブルテレビを利用している集合住宅でも実際に自分の集合住宅では4K対応なのか、2Kだけなのかということがわからない場合や、4Kにするにはセットトップボックスが必要だということをご存知ない方がかなり多いのではないかとと思われる。前回会合で、A-PABに対して、間違っって設置したなどの苦情はないかと話を伺ったところ、苦情はないとの話だったが、このような結果を見ると、なかなかA-PABまで行きつく人が少ないのではないかと考えた。

今後に向けて、みなさんが十分理解し、自分で選択して、4Kを見るために間違いのない、色々な選択の中からできるということが必要かと思う。周知広報をどのようにしていくかがとても重要だという事がわかったので、A-PABには今後に向けて何か違う方策があるのかどうかをお伺いしたい。また、他にも業界全体として何か広報していく必要があるのではないかと考える。

【榎並構成員】

事務局の資料9-4の6ページのグラフで、4K8Kが受けられる受信機の出荷状況が描かれているが、ほとんどが4Kだと思う。8Kがどれくらいの台数出荷されているのか、もしわかれば教えていただきたい。

また、9ページ以降、今後の課題について3枚のパワーポイントで上手くまとめていただいたが、最後の12ページにできれば入れていただきたいのは、左旋の周波数を活用するためには、8Kのコンテンツが充実することが重要で、そのための受信環境の整備が必要だが、多チャンネルや高画質だけではどうしても普及に限界があるだろうと思う。そのためには、新しいサービス、機能が重要なのではないかと考える。12ページに新しい機能の開発などの言葉を入れていただけると嬉しい。そのために国に要望したいことは、左旋のチャンネルでまだ空いているところがあるが、そのような新しいサービスをトライアル出来るようなチャンネル、実験チャンネルなどを提供し、業者に開放し、色々なサービスをさせる。例えば、8Kの応用となるだろうが、バーチャルリアリティのように全天周の映像を送り、受信者はバーチャルリアリティ風にコンテンツを楽しめるなど、何か新しいサービスが左旋ならできる、ということを見せていただくことが重要である。

【事務局】

まず6ページの受信機の数だが、こちらについてはご指摘のとおり4K放送を受信する受信機の数ということで認識している。8K受信機の数値については、この会合のあと関係者と確認させていただき、必要なフィードバックをさせていただきたい。

新しい機能という点については、どのような形でこの12ページの中に入れるか、少し検討させていただきたい。全体として、この12ページの内容がこのワーキングの今後の議論も含め、報告書のとりまとめということではないので、いただいたご意見をどう繋げていくか、左旋の有効活用の方策も含めて検討させていただきたい。

【大橋構成員】

事務局の資料9-4の12ページ目は大変よくまとめていただき、論点もかなり明確。結局、受信環境整備の中でケーブルテレビや、光を使っていくことが現実的な選択肢かと伺っていたが、他方でブロードバンドのユニバーサルサービス化などの議論も進んでいる中で、左旋も含めた衛星放送のことも載せていけないと感じた。

また、周知広報についての重要性も取り上げていただいているが、このようなことは行

政のEBPMの取組にも乗りやすいタマではないかと思っており、ぜひ積極的にこうした取組をしながら、衛星放送の普及促進に向けて施策を考えていただければと思う。

【奥構成員】

A-PABの資料9-3の17ページは、パラボラアンテナ受信での宅内からテレビ端子までの受信可能世帯数を表している。出荷台数ベースだと4K8K視聴可能機器台数は315万台ということだが、宅内配線で左旋まで受信可能な世帯数はピンク色で示された142万世帯。この二つの数字から、受信機として対応できる端末を持っているが、左旋までは受けられないというボトルネックが生じている。一方4Kチューナー内蔵テレビについては、今後対応していくメーカーも増えるので、かなりの勢いで売れていき、インチ単価も下がると思う。思い起こせば、地デジのときもフラットパネル、平面テレビとしての文脈もあって売れたということかというと、今回の4Kは有機ELとしての高画質化という点で便乗できると考えると、端末は結構な勢いで増えるのではないかな。

このギャップを埋めるには、マンション共聴の中の宅内配線対応が非常に重要であると感じる。先程資料9-2の3ページのNHKの資料で、どのルートで見ているかということかというと、マンション共聴が24%というスコアがあった。視聴者が自らの力で4Kを見られるようにするには、マンション共聴の場合、様々なハードルが高いため、一般のユーザーに対していかに支援をするかということが大事である。ケーブルテレビや光の場合は事業者が間にはいるので、その営業力を借りることが可能だが、マンション共聴でパラボラアンテナ経由の直接受信をしようとする管理組合との向き合いが必須となる。その点にフォーカスを当て、支援できると良いのではないかな。

【近藤構成員】

昨年横浜の540世帯が暮らす団地の管理組合の理事長を拝命している。集会所でテレビをみられるようにと考え検討したところ、昨年某社のケーブルテレビと団体契約したので契約プランを変更するだけで受信可能になりありがたい。しかし、ケーブルテレビで電話を利用する場合、相手によって、NTTへかける電話番号になることを知らなかった。

四国の実家でBSアンテナ工事をした時に、工事担当者はアンテナ視聴が安いことを強調するが、右旋、左旋のことの説明は一切なかった。衛星放送の新しい情報提供を、実際に工事をする方達にもっとがんばってほしい。消費者と最後にお会いする方達からテレビのサービスが始まって、こんなものもできるし、こんなものも見られるということ、小さな冊子でもいいので、色々なサービスが始まったということを紹介していただけるといいと思う。

【中村構成員】

事業者からのプレゼンにより、色々方法があることがわかったが、逆に複雑であることもわかってしまった。今の対応端末は年間300万台ペースで売れている。これはやはりし

っかりとした国民のニーズがあると見た方がいいし、見たいと思えば見られるということ、を、いかに今のユーザーにわかりやすく伝えられるか、また、単なるハード売りではなく、ひかりTVのようにサブスクモデル、サービスとして買うとハードも一緒についてくる、工事もしてくれるというような販売方法、サービスを届ける仕組みを、地域によっても色々な種類があると思うが、業界による地域の販売店やCATV事業者の方々等、業界横断で色々なメニューを用意し、ユーザーにわかりやすく伝えるというところを頑張っていたかと良いと思う。

ポストコロナ時代は、在宅勤務や教育などで遠隔TV会議等のニーズが、ネットでのTV視聴とともに増えてインターネットの帯域不足が深刻となるとと思うが、戸建てもマンション内もそうだが、プラスチック光ファイバについては、生活の質を上げる等もう少し別な観点からも力を入れて良いのではないかと。やはりプラスチックだと工事コストも非常に安く、実現による効果も非常に大きいので、生活の質を上げるという意味においても、ローカル5Gとともにセットでなんらかの振興策をとる意義があるのではないかと。

【音構成員】 ※事務局でコメントを代読

今回ご報告いただいた、日本CATV技術協会の資料を拝見したが、集合住宅における4K8Kを視聴するための受信環境整備にあたっては、それぞれのお住まいのご事情により対応が異なることからどうしてもその理解、整備への手続に二の足を踏んでしまうことが予想される。特に私も経験があるが、集合住宅における管理組合内の合意形成の手間を考えると4K8K視聴を希望しても二の足を踏んでしまうと思われる。前回のA-PABのご報告を含め、関係団体の方々のご努力、ご苦勞にはつくづく頭が下がり、敬意を払うものではあるが、この周知並びに利用者のインセンティブの向上をサポートする仕組みを関係団体が共同で検討すると共に、政策的な支援をご検討いただければどうかと思う。

今回の会議の中心テーマは受信環境の整備の問題だが、4K8Kの受信環境の整備を視聴者に起こしてもらいたい最大の要因はなんといっても魅力のあるコンテンツだと思う。4K8Kコンテンツの魅力をもっと社会に顕在化させる必要があると思う。ケーブルテレビ連盟はケーブル4Kの推進の意図も込めて、ケーブルテレビアワードにおいて4K部門を立ち上げたが、それが引き金になってか、ケーブルテレビの4Kコンテンツは一般化し、4K部門以外のアワードでも4Kコンテンツが出品されるのが一般化するなど、現場における4Kへのシフトが進み、またケーブルテレビ加入者にもケーブル4Kが認知されるようになったと聞く。衛星放送事業においても行政と連携して質の高い4Kコンテンツを検証するなど、衛星放送事業者の4Kコンテンツの制作のインセンティブを高める方策を積極的に進めることが受信環境の整備推進に繋がるものと思う。

【久我構成員】 ※事務局でコメントを代読

中長期的な成長に向けてはまだ顕在化していないニーズ、潜在層へのアプローチが必要。そのためには、スマホやSNSと慣れ親しんで育ってきたデジタルネイティブ世代である

若年層の日常的な情報の流れに入り込むようなPR施策が有効ではないか。例えば広報活動用にSNSやネット動画で公式アカウントを開設して、情報発信をするなど。ご参考までに弊社が3月や6月に実施した調査によれば、コロナ禍で全ての年齢層でテレビやネットをはじめとしたメディア接触時間が増加しており、広報活動にはよい状況である。

一方で、若い年代ほどテレビや新聞、雑誌などの従来メディア接触と比べてネットやSNSの接触が増え、20代では意外とテレビとネットが同等ではあったが、恐らくテレビはながら視聴が多いためと思われるが、10代ではネット動画やSNSなどが超えている。よって、従来のテレビCMやチラシ等での広報活動に加えて、SNS関連の広報活動も併せて行っていくと良いのではないかと思う。

【伊東主査】

前回、BS放送の直近の課題として、4K番組の充実、特にピュア4K番組の比率を向上させる必要があるというご指摘を多くの構成員から頂戴した。また、本日のA-PABの市場調査においても、4Kテレビの品質は高くハードウェアには満足しているが、番組ソフトが充実していないというご意見が多かったように思われる。事務局でピュア4K番組の比率、あるいは4K放送の番組の種別等についての現状を把握していれば教えていただきたい。

【事務局】

主査からご指摘、ご質問いただいたピュア4Kコンテンツに係るデータについては、一度事務局で預かり、整理の方法も含め、検討させていただきたい。

【伊東主査】

今回の事務局提出の資料9-4は中間報告の性質を持っているものではないということで、今後皆様のお力を借りて内容をさらに充実させていければと思う。今のピュア4K番組の比率の話に加え、本日ご意見が出た中では周知広報が重要である。A-PABも色々ご苦労されて、工夫もされているだろうが、更にお知恵等あれば構成員からの質問もあったので、周知広報策についてブラッシュアップしていただければと思う。

事務局にもう一点引き取っていただいたBSの左旋の使い方、あるいは付加すべき新しい機能としてどういうものがあるのか、そういったことに関しても事務局でまとめていただけるようなら資料を出していただければと思う。各構成員からの意見を受けて事務局においては、これらのことを中心に今後の運営等に反映していただければと思う。

(4) 閉会

以上